



なばり

2019年(令和元年) 12月25日発行

主な内容

- 2~3……市長が選ぶ今年の10大ニュース
- 4~5……市立病院だより「きらり」
- 7……年末年始の市の業務
- 8……年末年始の医療機関

発行/名張市秘書広報室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 FAX 0595-64-2560 ✉pr@city.nabari.mie.jp



▲イオン名張店3階で朝8時30分から行われるラジオ体操には、毎朝約30人が参加



▲名張地域の有償ボランティア「隠おたがいさん」の事務所を視察



▲各地域では、健康寿命を伸ばそうと健康づくりや介護予防に取り組む。すずらん台地域の「はつらつらんらん体操」の様子を視察



▲食育や運動で元気を広める赤目地域のまちじゅう元気プロジェクトを説明



▲百合が丘小学校への学習支援「ほめほめ隊」を視察

世界保健機関 (WHO) World Health Organization



世界中の人々の健康を実現することを目的に設立した国際連合の専門機関です。本部はスイスにあり、現在200ほどの国と地域が加盟しています。病気の撲滅のための研究や医療・医薬品の普及、災害時の緊急対応、伝染病などの感染症対策、世界の保健衛生の分野が抱える問題などに対する支援を行っています。



WHO 西太平洋地域事務局
社会的決定要因担当課長
キラ フォーチュン さん
Mrs. Kira Fortune

名張市はコミュニティをととても大切にしています。そして、子どもから高齢者までの全世代に対するさまざまな取組を各関係機関と協力しながら計画を持って進めていることが素晴らしいです。世界では2045年に高齢者が若者を上回ると予測され、今後高齢化が進んでいきます。名張市の事例を世界の高齢化対策の参考にします。

人との結びつきを大切にし、互いに支え合う「地域共生社会の実現」に向けた取組を実践し、健康増進や介護予防、地域向上などの成果を出しているとして、WHO(世界保健機関)の代表4人が、12月12日・13日、市内の各地域づくり組織やまちの保健室などを訪れ、本市

の取組を高く評価しました。本市は平成15年、全ての市民の社会参加が叶う地域共生社会の実現を目指し、市総合計画「福祉の理想郷プラン」を公表し、以来、地域の身近な総合相談や地域福祉活動の拠点となる「まちの保健室」を整備し、その取組を進めてきました。

特に、各地域づくり組織では、その地域力を生かし、防犯・防災をはじめ、有償ボランティアによる生活支援や子育て広場など地域課題を解決する地域共生のまちづくりが進んでいます。本市では、これら地域の取組を土台として、妊娠・出産・育児を切れ目なく支援する仕組み「名張版ネウボラ」や複合的な生活課題を解決する「地域福祉教育総合支援ネットワーク」により包括的な相談・支援体制の構築を図っています。

少子高齢化が急速に進む中、市内にある各地域づくり組織ではさまざまな取組が活発に行われています。これまで本市では、地域力を生かし、「まちの保健室」の整備や健康づくり、介護予防の取組など、地域と行政・関係機関が連携しながら進めてきました。これら地域共生社会の実現に向けた本市の取組が先進的であると、12月12日・13日、WHO(世界保健機関)の代表4人が視察に訪れました。

☎医療福祉総務室 63・7579

WHO(世界保健機関)が本市を視察 地域力を生かした取組を高く評価